

# 環境大レポート

第40号

Mar. 2024

K A N K Y O D A I R E P O R T



## 特集

### 「変化」のとき—。

在任期間6年を振り返って 公立鳥取環境大学 理事長兼学長 江崎 信芳  
退職に当たって 環境学部 学部長 遠藤 由美子  
退職者紹介 / 次期理事長兼学長予定者のお知らせ

## キャンパストピックス

COP28に参加してきました！  
第20回 環大コンペの結果について  
脱炭素への取り組み

## 研究紹介

Emerging contaminant (新興汚染物質) に挑む  
環境学部 山本 敦史 准教授  
揺らぐ自由貿易が多国籍企業の海外進出とグローバル・サプライチェーンの構築に与える影響  
経営学部 連 宜萍 准教授

2 3

4 5

6

## 国際交流

セントラルクリスチャンカレッジオブカンザス(米)との学生交流プログラムを実施しました  
韓国・清州大学との短期文化交流プログラムを実施しました

## 就職支援

2023年度 就職結果速報 / 就職支援センター

## サークル活動・資格取得

手品部・TUES English Club・学生EMS委員会 / 資格取得関連情報

## プロジェクト研究

鳥取県の穴場温泉を発見しよう

## 学友会

第23回環大祭が無事に閉幕しました

## キャンパスニュース

2023年後期のニュース

## お知らせ

PRコーナー / 2023年度 学部・大学院学位授与式 / 2024年度 前期開始日程  
授業料の納入について / 決算報告

7

8

9

10

11

12

# 「変化」のとき

江崎学長から小林新学長へバトンタッチし、我々は新たな一歩を踏み出します。

## 公立鳥取環境大学



### — 略歴 —

京都大学農学部卒。同大学院 農学研究科農芸化学専攻博士課程修了。京都大学化学研究所助手、米国マサチューセッツ工科大学客員研究員、京都大学化学研究所教授・同所長、京都大学理事・副学長(京都大学名誉教授)、放送大学京都学習センター所長、特任教授を歴任。2018年4月に公立鳥取環境大学理事長兼学長に就任。

## 在任期間6年を振り返って

公立鳥取環境大学 理事長兼学長 江崎 信芳

2018年4月に本学の理事長兼学長を拝命して間もなく6年が経過しようとしています。この間、大過なく運営できたのは、本学の設置者である鳥取県と鳥取市、そして学生や教職員はもとより、卒業生や地域の方々のご支援のお蔭です。ほんとうにありがたかったと思います。

本学はこれまで、持続可能な社会とはどういうものか、それを実現するためには何が必要かを追い求め、教育研究をしてきました。この姿勢は国連の持続可能な開発目標、すなわちSDGsの趣旨に合致することから、2018年10月、本学は「SDGs取り組み宣言」をしました。SDGsという共通の目標を通して、社会と対話できるようになったのは誠に幸いでした。現在、鳥取県内の事業者の方々との連携事業を通して、本学教員と学生がリアルな地域課題に取り組んでいるところです。

2020年から始まった新型コロナウイルス感染症パンデミックによって本学もダメージを受けました。しかし、教職員と学生の忍耐と創意工夫によって、これを乗り越えることができました。この間、多くの方々から心温まるご支援をいただいたことが私たちの大きな心の支えになりました。感謝に耐えません。

そのような中で、2021年に創立20周年記念式典を挙行政らせていただきましたが、多くの方々にご列席いただき、神戸大学経営学部の國部克彦先生に素晴らしい記念講演をしていただきました。また、

創立20周年記念事業を通して、多くの皆さんからのご支援のありがたさを実感しました。

同年、本学は副専攻制度を開始しました。それぞれの主専攻に加えて、副専攻として経営あるいは環境をさらにしっかり学べるようにしたほか、AI・数理・データサイエンスや、英語実践、地域実践の副専攻も設けました。この制度は、かねてから実践してきた横断的な教育をさらに発展させたもので、今後も本学が人々から「選ばれる大学」であり続けるのに大きく寄与してくれるものと思います。

昨年4月には、本学は鳥取市をはじめとする4者の共同提案により、環境省の脱炭素先行地域に選定されました。本学が立地する若葉台地区と、佐治町で活動を展開し、2030年には電力由来の炭酸ガス排出量ゼロを目指しております。これを機に本学は、昨年8月、国連の脱炭素キャンペーン「Race to Zero」に参加することになりました。わが国の大学では3番目、公立大学では最初の例です。

本学は2001年の創立以来、現場に出て、自ら課題を見つけ、自らその解決法を提案できる力の育成に重きを置いてきました。現場とはすなわち地域のことで、地域の方々のお陰で、ここまでやってくることができました。今年の4月からは、小林朋道先生が私の後任の理事長兼学長に就任されます。小林先生は、鳥取県そして鳥取市の皆さまのお力添えをいただきながら、地域に根ざした教育研究を通して、本学をさらに魅力的な大学にしてくださるものと期待しております。

## 退職にあたって

環境学部 学部長 遠藤 由美子



た、人口規模も小さな地域であることで、着任当初より私の教員生活は何より豊かな経験に満ちていたのではないかと考えています。県外より入学してくる学生にとっても、県内出身の学生との学びや、鳥取県内を中心とする地域でのフィールド学修の経験が、私と同様にここでしか得られないような豊かで温かい経験をもたらされていると思います。

環境学部に属してからは建築やインテリアに関しても、より環境的であることを意識した教育・活動に努め、今日に至っています。当時、既に建築の専門分野においても地球環境にもたらす影響の大きさが言われ始め、環境共生建築の重要性についての声は徐々に大きくなっていきました。2018年、本学がSDGs取り組み宣言をしたときに社会はこの言葉に押されるように活動を始動し始めましたが、本学は既に開学当初よりサステイナブルというキーワードのもとに社会に貢献できる人材の育成を目指していました。

現在は更に地球環境への危機意識は高まり緊急性も増し、国をあげて「脱炭素」の推進姿勢を強化してきています。本学には、これまでの経験と実

績の積み上げがあり、これに取り組む準備は十分にできていた中、2023年、鳥取市が脱炭素先行地域に選定され本学も参画しています。周辺地域の脱炭素を目的とする研究や活動、また、大学施設の整備も大きく動き始めました。本学の使命である「環境と経営を学び社会に貢献できる人材の育成」について、更に社会からの要請度は増し、この取り組みが大学の存在意義を高める機会になると思います。今後数年間にわたる計画の実施は、教職員にも学生にも身近で具体的な体験をもたらす、更に大学は大きく前進することが想像できます。

私の退職後も「心豊かな時代」の記憶を作って頂いた関係の皆さまの益々のご活躍と、公立鳥取環境大学の発展をお祈り申し上げ、退職のご挨拶といたします。

### — 本学での略歴 —

2009年 4月 環境情報学部准教授  
2016年10月 環境学部教授  
2017年 2月 副学長  
2022年 4月 環境学部長、大学院環境経営研究科副研究科長・同環境学専攻長

## 退職者紹介 2024年3月を以て、次の2名が退職いたします。



副学長  
矢野 順治

### — 本学での略歴 —

2015年4月 経営学部教授  
2018年4月 経営学部長、大学院環境経営研究科副研究科長・同経営学専攻長  
2021年4月 副学長、アドミッションセンター長



人間形成教育センター  
教授

Begole Bettina

(ベゴール・ベッティーナ)

### — 本学での略歴 —

2002年4月-2006年3月 英語特任講師  
2009年9月 人間形成教育センター准教授  
2019年4月 同教授

## 次期理事長兼学長予定者のお知らせ

次期理事長兼学長 予定者

小林 朋道 こばやし ともみち

理学博士(京都大学)

専門分野:動物行動学、進化心理学

現 職 名:公立鳥取環境大学 副学長、学生支援センター長

次期理事長兼学長の任期

2024年4月1日から2028年3月31日まで(4年間)





# COP28 に参加してきました!

公立鳥取環境大学は、気候変動の緩和を目的に、パリ協定が求める水準と整合したCO2削減目標を掲げ、教職員、学生が協働して、脱炭素の実現に向けて取組を進めています。

脱炭素社会の実現に重要な役割を果たすユース世代を育成するため、鳥取県は県内大学生等をCOP28(ドバイ)へ派遣しました。今回は、本学から参加した学生2名、教員1名のコメントを紹介します!



## 環境学部3年 三谷 菜摘さん

COP28のポイントは、初めて行われたグローバルストックテイクの報告です。パリ協定で採択された目標に向けて、世界全体の進捗状況を5年ごとに評価する仕組みがグローバルストックテイクとされています。成果文書には、再生可能エネルギーの容量を3倍にし、エネルギー効率を2倍にする目標が設定されました。また、この10年で脱化石燃料化を加速させる方向性がはっきりと示され、石油・ガスを含むすべての化石燃料の転換に向けた取り組みが締約国で初めて一致した会議となりました。

日本は、現在稼働している石炭火力発電の廃止年限をG7の中で唯一ははっきりと明言していません。この点において、世界が脱炭素化に確実な歩みを進める中で、日本が後ろ向きな姿勢を見せているようです。ジャパンパビリオンでは、「日本は環境問題に対する当事者意識が低い。テクノロジーやお金がすべてを解決してくれるという考えから、今だけ、自分だけという風潮が強まっている。人口最小である鳥取の地から、高齢社会の日本でマイノリティな若者の中で、さらに環境問題に興味を持つマイノリティな私たちが先陣を切って行動し、価値観や意識を変えていこう!」と発信してきました。



▲ 現地ドバイにて(左から甲田准教授、三谷さん、横山さん)



▲ TUES Sustainability Weekでの参加報告の様子

# 第20回環大コンペが開催されました

環大コンペは「公立鳥取環境大学を支援する会」主催のイベントで、大学生活の向上と地域社会に貢献する企画を学内から募集し、優秀企画(団体)を表彰する伝統ある学内コンペです。これまでの歴史の中では、卒業後、鳥取県で事業を起こし、活躍する参加者もいます。

今回は環境部門と社会部門から合計8団体の応募があり、外来哺乳類調査の新たなアプローチ、地域と学生サークルが接続できる場所づくり、地域の伝統行事の継承などについて、環境大生らしい様々な視点から地域課題の解決を提案していました。



▲ 炭川&近藤 表彰風景 ▲ サークル展覧会 発表風景



▲ 参加者及び審査員

### 環境部門

【最優秀賞】炭川&近藤  
「道路維持記録を用いた鳥取県における外来哺乳類の分布について」

【第2位】Fluffy  
「鳥取市中心市街地における学生でもできる地域猫活動」

【第3位】なべ部  
「学生の介入による地域活性化」

【第4位】大学生の修理人  
「故障した自転車を復活させる!」

### 社会部門

【最優秀賞】交通研究同好会  
「サークル展覧会」

【第2位】うぐいつき広め隊  
「うぐいつきの魅力発信、伝統文化の継承」

【第3位】藤原洋希  
「続・こちら公立鳥取環境大学生涯探求局です! ~環大探求革命の実践~」

【第4位】藤原洋希  
「鳥取・麒麟の地 サステナビリティツアー ~学生による地域イノベーション創出の第一歩~」

### ルーキー賞

【環境部門】Fluffy  
「鳥取市中心市街地における学生でもできる地域猫活動」

【社会部門】うぐいつき広め隊  
「うぐいつきの魅力発信、伝統文化の継承」

ルーキー賞は、1年生のみで構成された団体の企画のうち、各部門での最優秀企画に送られる賞です。



## 環境学部4年 横山 椋大さん



海外の若者との交流で印象に残ったことをいくつか紹介します。ケニアでは、マラリアの発生範囲が広がるなど、気候変動が引き起こす健康被害について話を聞きました。ナイジェリアでは、干ばつや洪水による気候難民が発生していること、中国では、様々な教科で環境教育が行われているため、市民にとって気候変動と現実のつながりを理解しにくいということも知りました。また、Youthのパビリオンでは、ザンビアの女性が「Youth is resource.」と語り、若者が社会を変える大きな力を持っているため、若者たちの声を政府に届けるプラットフォームを作る必要性を話していました。

世界の国々の文化、伝統、経済状況、気候変動への影響が全く違う中で、世界的な合意形成は難しいと感じました。日本では、気候変動により農作物の適地が北上し、蚊を媒介した感染症リスクが増大する可能性、また、「四季」から「二季」へ変わる可能性、そして、自然と調和することを尊んだ和食文化への影響など、日本のアイデンティティの喪失にも繋がりがねないと感じました。

我々ができることは、気候変動と一緒にアクションしていく仲間を集めることです。また、各個人が気候変動への課題意識を持ち、積極的に公共交通機関を利用するなど、日常の習慣を変えることが重要だと思います。



▲ 現地での様子(鳥取県提供写真)

## 環境学部 甲田 紫乃 准教授



鳥取県は、「トトリポーン!」を合言葉にして、脱炭素社会の実現に向けてユニークな普及啓発事業を展開しています。「トトリポーン!」は、2050年までの脱炭素社会の実現に向けた理念と柱をまとめた「とっとりエコライフ構想」の愛称です。一見すると単なるシンボルマークですが、この取り組みは、「トトリポーン!」の名のもとに展開される一連の啓発事業を通じて、関わる人と持続可能でより豊かな社会づくりの実現に向けた精神性を共有できる点が特徴です。

そして、取り組みの連続をブランド化し、発信力を高め、より多くの人を巻き込むことを狙っています。

私は、「トトリポーン!」の言葉が生まれる以前から、県等の依頼により県の脱炭素施策を検討する場に関わってきましたが、2023年度は「トトリポーン!」の目玉事業であるCOP28への県内学生派遣事業では事業のアドバイザーとして関わりました。本事業では、県内の高等教育機関に在籍する学生の中から公募による審査を経て、本学学生2名を含む計3名が選ばれました。本事業は、ジャパンパビリオンでの派遣学生による発表や世界中のユースたちとの交流、そしてこれらで得た学びを鳥取県に還元し、持続可能な社会に向けた県民の気運の構築などを主目的に据えたものです。

私はこの秋、県の依頼により、「トトリポーン!」のアドバイザーとして、COP28に同行しました。派遣学生たちが発表内容を練り上げていく過程で、理念や価値観など漠然としたものに偏っていた内容に、彼ら自身の実際の行動が付加されていった点は特筆に値します。この点で、本事業は、行政とアカデミアが協同して実施した持続可能な社会に向けてのプラグマティズム的な画期的な取り組みであると言えるでしょう。



▲ 現地での様子(鳥取県提供写真)

# 脱炭素への取り組み

## 気候変動アクション日本サミットに江崎学長が参加しました

2023年10月6日(金)に東京で開催された気候変動アクション日本サミット2023(JCAS2023)に、本学の江崎信芳学長がパネリストとして参加し、大学の取組を紹介しました。



▲ オンラインセッション



▲ 会場の様子



本学サイト



気候変動イニシアティブの公式サイト

## TUES Sustainability Weekを開催しました

2023年12月18日(月)~22日(金)に本学でTUES Sustainability Weekを開催し、多くの学生、教職員が参加しました。

TUES Sustainability Weekは、脱炭素を起点に地域・大学の持続可能性・環境について考え、学生・教職員の参画を得て実施したイベントです。本学教職員、行政等の方々によるトーク、パネル展示、古着古本市など様々な取組が行われました。



▲ イベント案内チラシ



▲ ゲストスピーカーに平井鳥取県知事も登場 ▲ 英語ゴミ拾いイベント



本学サイト



File1

## Emerging contaminant (新興汚染物質) に挑む

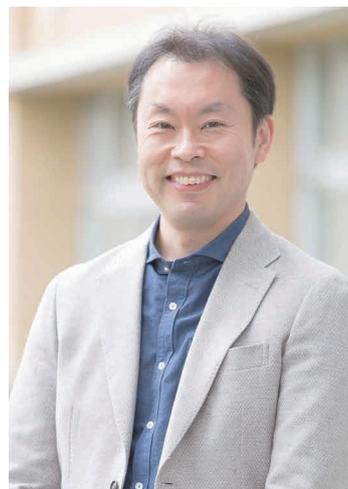
水道水源等で有機フッ素化合物による汚染が話題になることが増えています。フライパンのフッ素加工等、有機フッ素化合物は私たちの暮らしに役立っているものが多いのですが、PFAS (ピーファスと呼ばれています) という一連の有機フッ素化合物群は生体にとって有害です。PFAS はフッ素加工のためのテフロン樹脂の製造や消火剤、半導体製造等にも使われていました。PFASは永遠の化学物質との異名があるほど壊れ難い化学構造をしているため、環境に一旦放出されてしまうと汚染の除去が困難です。また、



▲ ベオグラード大学(セルビア)での研究打ち合わせ

種類がとても多く環境汚染の研究者は過去に使われていたPFASについて、今でもその全体像を把握できて

いません。私の研究室では、質量分析法を用い精密にこれらの有機フッ素化合物を分析しています。これにより環境汚染の要因と考えられていなかった(こういうものを新興汚染物質と呼びます)PFASやそれらの分解物の探索、さらには汚染源の解析なども可能となります。質量分析という学問領域は分子の質量を測定することで、分子の構造を解析したり、その量を調べたりすることができます。僅かな量からでも高品質なデータを得ることができるため環境汚染だけでなく、身近な医薬品や食品、さらには犯罪捜査から宇宙探索まで多くの分野で欠くことのできない技術になっています。ただし、高度情報社会となり機械学習等の実用化が進んだとはいえ、高品質な質量分析データから目的とする情報を取り出すことはまだ簡単ではありません。世界中の研究者と連携しながら、新しい時代の環境汚染問題に取り組んでいます。



環境学部

山本 敦史 准教授

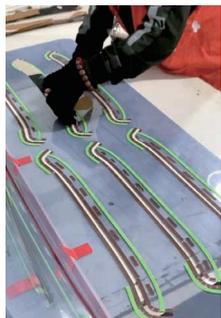
専門 | 分析化学・質量分析

File2

## 揺らぐ自由貿易が多国籍企業の海外進出とグローバル・サプライチェーンの構築に与える影響

### 自由貿易の動向

2016年にアメリカや日本をはじめとする12か国がTPP(環太平洋パートナーシップ)に調印し、その後、2020年にASEAN(東南アジア諸国連合)をはじめとする15か国がRCEP(地域包括的経済連携)に調印しました。加盟国間で関税の引下げやサービス貿易の推進といった自由貿易の展開が多国籍企業の海外進出とサプライチェーンの構築を



▲ カンボジアにある縫製工場

促しています。**自由貿易の揺らぎが企業の海外進出に影響を与えるのか?**

しかし、2017年にアメリカがTPP離脱を宣言し、翌年に米中貿易戦が勃発しました。加えて、コロナ禍が収束しない2020年

にRCEPが調印されたが、関税撤廃率が低く先行きに不透明感が増えています。これまで推進され



▲ ベトナムにあるニット生地工場

てきた自由貿易が揺らいでいます。自由貿易の揺らぎが多国籍企業の海外進出やグローバル・サプライチェーンの再構築にどのような影響を与えているのか、私は繊維・アパレル産業を取り上げて研究調査を進めています。

### ケーススタディで企業の戦略を分析する

私のゼミでは、多くの業界の様々なケーススタディを通じて多国籍企業の国際化行動を分析しています。企業が海外投資を行う際の立地選択要因は何か、同じサプライチェーンのある企業の立地変更がほかの企業の投資行動にどのような影響を与えるのか、これらの疑問の答えを探っています。



経営学部

連 宜萍 准教授

専門 | 国際経済・多国籍企業



## 国際交流プログラム

本学では、海外大学との交流協定に基づき、様々な学生交流プログラムを実施しています。海外の学生との交流や歴史・文化体験は、語学力や国際感覚を磨くだけでなく、視野の広がりや自己成長のきっかけとなっています。

詳しくはこちら!



## セントラルクリスチャンカレッジオブカンザス(米)との学生交流プログラムを実施しました

本学は、カンザス州のセントラルクリスチャンカレッジオブカンザス(Central Christian College of Kansas ※CCCK)と、学生交流と異文化体験を主とした相互派遣方式のプログラムの編入学協定を結んでいます。今年度は、第1回目の派遣プログラムを実施することとなり、8月16日(水)から9月17日(日)までの間、本学学生2名をCCCKへ派遣しました。

プログラム期間中、本学からの派遣学生は、CCCKの学生と一緒に英語科目のほか経営やサイエンスに関する講義も受講し、授業後はクラブ活動に参加して交流を深めるなど、アメリカのキャンパスライフを楽しむとともに、週末は地元の方々とマクファーソン市内の観光や、郊外へ出かけるなど、アメリカ滞在を満喫しました。

この学生交流プログラムを通して、海外での学修だけではなく、CCCKの学生や現地の皆さんとの出会いに恵まれ、様々な異文化体験を通して多くのことを学ぶことが出来ました。



▲CCCK



▲講義の様子



▲週末もアクティビティを満喫



## 韓国・清州大学との短期文化交流プログラムを実施しました

本学と清州大学は、教育及び研究活動の相互交流協定を締結しており、今年度、この協定に基づき、清州大学との短期文化交流プログラムを実施しました。

まず、8月15日(火)から18日(金)までの4日間、清州大学の学生15名が鳥取県を訪れ、鳥取市及び本学学長表敬の後、本学から参加した15名の学生と共に、鳥取市内の白兎神社への参拝や鳥取砂丘、砂の美術館、鳥取市歴史博物館等の見学、浴衣の着付けと茶道体験、あおや和紙工房での紙漉き体験等を通じて、文化交流を行いました。

その後、8月22日(火)から25日(金)までの4日間、今度は本学の学生が韓国・清州大学を訪問し、清州大学の学生と一緒に韓国民族衣装の着付けや茶道体験、テコンドー体験のほか、国立現代美術館を見学し、韓国の文化を学びました。

学生達は、これらの経験を通じて、両国の文化を一層深く理解するとともに、日本語や韓国語、英語を用いて、お互いの学生生活や趣味の話題で盛り上がり、親睦を深めました。

参加した学生からは、『日本や韓国で文化体験ができ、韓国の方達と一緒に過ごしていく中で、自分にはなかった価値観などを知ることができました。この体験は、ただの旅で韓国へ行くのとは違う、自分にとって貴重でとても楽しい経験になりました!』といった感想が聞かれ、充実した文化交流となりました。



▲皆で鳥取砂丘に行きました



▲韓国料理で交流会



▲現地(韓国)での様子



▲清州大学の前にて



就職支援

# 2023年度 就職結果速報

※印刷した冊子以下の通り誤りがございました。お詫びして訂正いたします。  
(誤) 徳島県 中学校理科 教員採用試験  
(正) 徳島県 高等学校理科 教員採用試験



**合格** 徳島県 高等学校理科  
教員採用試験

環境学部  
北方 幸さん (佐賀県出身)

## 教員採用試験について

### Q 教員を志したきっかけは？

中学・高校のときの先生方との出会いです。勉強や部活など、様々な面で寄り添って下さいました。教員は勉強を教えることだけでなく、生徒の夢を後押しする仕事だと思うので、私も頼りがいのある教員を目指しています。

### Q 教員採用試験の対策としてどのようなことをしましたか？

一次試験の教職教養は全国の自治体の問題が載っている問題集を、専門(地学)はゼミの先生に相談して教えていただいた問題集を何度も解きました。二次試験では、模擬授業の導入部分を考えたり、教職の先生と面接対策を行ったりしました。

### Q 教員採用試験で直面した困難は？ また、それを乗り越えられた理由は？

一般企業への就職が決定した友人を見て、自分だけ進路が決まっていなくて落ち込むことがありました。そんなときは、好きなことをやる時間と勉強する時間をしっかりと分けたり、同じく教員採用試験を受ける友人と励まし合ったりしていました。

### Q 学んだことを今後の仕事にどのように活かしていきたいですか？

時間の有効活用方法を大事にしていきたいです。教員の仕事は多種多様だと思います。その中で、自分自身の教科に関する知識はもちろん、授業の準備や生徒と関わっていく時間など、有意義なものにしたいです。

## 大学について

### Q 大学時代に学ぶべきこと、体験すべきことは何ですか？

4年間はとても充実していましたが、それでもまだまだ学び足りていないと思うことや、もっと友人たちとあんなことできたと思うことがたくさんあります。しっかり学んでたくさん遊んで楽しんでください。



**内定** 西日本旅客鉄道

経営学部  
和田 剛さん (鳥取県出身)

## 就職について

### Q 内定先の仕事に興味を持ったきっかけは何ですか？

内定先の仕事に興味を持ったきっかけは、本学の個別企業説明会です。もともと内定先の企業の別系統の仕事我希望していたのですが、個別企業説明会で本学出身の先輩社員から詳細なお話をお聞きしたことで興味を持ちました。

### Q 就職活動を振り返って公立鳥取環境大学、鳥取で学ぶことの良さは？

公立鳥取環境大学で学ぶ良さとしては、1. 2年次行われるプロジェクト研究を通して、鳥取の事を知ることが出来、改めて自分が地域について考え直すことができる点です。就職活動でも就職先を選択するきっかけになりました。

### Q 本学の就職支援で役立つ制度はありますか？

役立つ制度といえば、就職支援センターの面接指導です。友人などと面接練習をすることはありましたが、就職センターで就活のプロに指導してもらうことで、自分の直す部分が明確になり、本番においても順調に進めることができました。

### Q 学んだことを今後の仕事にどのように活かしていきたいですか？

私は、地域経営を中心に学んでおり、これまで鳥取県内をはじめとし、日本各地の地域を支えるために企業や個人が日々挑戦していることを学びました。今後は、インフラ関係に力を入れたい。挑戦している人々の生活を支えていることを自覚し、働きたいと思っています。

## 大学について

### Q 大学時代に学ぶべきこと、体験すべきことは何ですか？

大学時代は、就職前に自分の時間がたくさん持てる数少ない機会です。この4年間で全国各地を見て回ることができ、鳥取で育った私にとってとても新鮮な経験となりました。そのため、大学時代は、大学の外での経験もたくさんすべきだと思います。

### Q 本学で楽しかったことを教えてください

私達24年卒は、コロナ禍での入学となり、2年間はオンライン授業で大学に行く機会がとて少なかったです。しかし、サークルのヤギ部では、友人や先輩方と知り合うことが出来たり、対面で活動したりと、大学生活の中でも特に楽しい経験となりました。

## 就職支援センター



就職支援センターでは、学生一人ひとりに寄り添い、不安や疑問を解消しながら、希望する就職先への内定を目指し、就職活動のサポートを行います。1年次の進路ガイダンスや資格・検定の取得支援に始まり、3年次には全学生と個人面談を行うなど、小規模大学ならではの手厚いバックアップを実施しています。

就職アドバイザー  
吹野 之彦

特別サイト▶



### Support 1 きめ細かなガイダンスと面談

#### 就職ガイダンス

就職活動の基本を指導します。不安や疑問を解消し、積極的に就職活動に取り組めるようにします。

#### 全3年生対象の個人面談

本学では3年生全員と個人面談を行います。一人ひとりに併走し、個々の希望やみんなの前では話せない悩みなどに耳を傾け、適切なアドバイスをします。

#### 学内企業説明会

鳥取県内外の大手企業や優良企業を学内に招いて説明会を開催しています。企業の人事担当者と面談し、直接話すことができます。

#### キャリアカウンセラー

就職活動への意識や悩み、不安になっている内容と一緒に考え、自分で自分の課題や長所に気づけるようにアドバイスします。仕事や生き方にもしっかりした考えを持てるよう手助けします。

### Support 2 就職活動へのサポート

#### 就職活動への経済的な支援

鳥取県外や地元での就職活動を積極的に行えるよう、交通費や宿泊費の一部を助成する制度があります。

#### 就職活動支援システム「TUESキャリアナビ」

本学学生向けの求人・インターンシップ情報、学内で開催する就職ガイダンスなど、就職活動に欠かせない情報が満載。先輩達の就職活動についてもまとめており、成功の秘訣を知ることができます。

### Support 3 公務員試験合格や資格取得を目指す

#### 公務員試験対策講座・資格取得支援講座を開講

Wスクールともいえる公務員試験対策講座や資格取得支援講座を学内で開講しています。講座費用の一部を本学がサポートし、学生の経済的な負担を軽減しています。さらに、合格者への表彰制度もあります。

#### 1. フォロー制度

本学には学生たちの可能性を伸ばすために担当職員を配置し、様々な相談に応えるほか、温かく見守り合格へとサポートします。

#### 2. 学生表彰制度 (資格・検定)

本学が定める資格・検定に合格した学生を対象に、学長が表彰するとともに、副賞を授与します。

### Support 4 就職アドバイザー

就職アドバイザーを鳥取県、山陽地区に配置。積極的に企業訪問や求人開拓を行っています。

- (支援内容) ● 進路全般に関する相談 ● 求人情報提供
- 履歴書・エントリーシートの添削 ● 面接練習

### Support 5 説明会・相談会

学内合同説明会や個別企業説明会などを開催。企業・求人情報、インターンシップ受入情報などを得る機会を設けています。さらに、卒業生ネットワークを整備しており、OB・OG就職相談会も実施しています。



## 手品部

私たち手品部は、2021年に設立した新しい部です。多くの人に手品の楽しさ、素晴らしさを知っていただくことを目的として活動しています。23名の部員のうち、ほとんどが初心者で、楽しみながら日々練習を重ねています。入部した時は何もわからなかった部員も、今ではプロの手品のタネがわかるようになったり、人前でも緊張することなく手品を披露したりしています。

主な活動は、地域の小学校のクラブ活動で手品をレクチャーしたり、地域のイベントや祭りでも、手品を披露したりすることです。

手品はトランプやコインはもちろん、ペンや割り箸等、身近にあるものでできます。さらに手品は、日本だけでなく、全世界共通のもので、老若男女問わず、場所も問わず、全人類を楽しませることができ、笑顔のできるエンタメです。あなたも手品で人々を笑顔にしてみませんか。

部長: 森西 律翔 (環境学部 3年) ※印刷した冊子には「経営学部」と記載しておりますが、正しくは「環境学部」です。お詫びして訂正いたします。



## TUES English Club

こんにちは! TUES English Clubです。私たちは、「英語を使って楽しく〇〇しよう!」をモットーに様々な活動を企画・運営しています。英語を使ってゲームや雑談、またTOEICの勉強会など行っています。学内の活動のみならず、昨年度からは外部とオンラインでも交流も始め、場所、年齢、国籍等に関わらず多くの人と英語で交流しています。

TUES English Clubは毎年大学祭でミュージカルを披露しており、今年は「アラジン」をしました! 見事成功し、今年1番の思い出となりました。

部長: 森本 侑里 (環境学部 1年)



## 学生EMS委員会

学生EMS委員会とは、環境がより良くなるように、学内はもちろん鳥取県内でも活動を行っている組織です。

全体での活動としては、例えば学内清掃や白兔海岸清掃、スクラッチペーパーの管理などを行っています。

全体活動の他には、委員の興味関心に合わせて活動できる「プロジェクト」があります。また、昨年12月には、新しく「TUES Sustainability Week」という取り組みを行いました。大学内の環境意識向上のため日々様々な取り組みを行っています。

部長: 真下 翔太 (環境学部 2年) ※印刷した冊子には「経営学部」と記載しておりますが、正しくは「環境学部」です。お詫びして訂正いたします。

## 資格取得 関連情報

日々頑張っている学生たちを紹介します!

本学には、公認会計士試験合格に挑戦する学生グループ(経営学部1~3年生)がおり、毎週勉強会を行っています。日々の個人の勉強だけでなく、経営学部 柳 年哉 特任教授のサポートのもと試験合格を目指して一緒に切磋琢磨しています。

公認会計士試験は、会計系の最高峰資格であり、監査業務が行える唯一の国家資格です。試験は、短答式試験(4科目)と論文式試験(5科目)の2つで構成されています。

勉強会メンバーの荒木 凌さん(経営学部 3年)は、2023年5月実施の短答式試験に見事合格し、同年8月実施の論文式試験では、一部科目合格となりました。現在、2024年8月実施の論文式試験の全科目合格に向けて、勉強に打ち込んでいます。

荒木さん以外のメンバーも、2024年中の短答式試験合格、そして論文式試験に挑むため、日々の努力を続けています。



日々の勉強や、

勉強会の様子





## プロジェクト名

## 鳥取県の穴場温泉を発見しよう

鳥取県には、さまざまな魅力を持つ天然温泉が各地に多数存在し、訪ねる人の心と体を癒やしてくれます。本プロジェクト研究では、鳥取県のグルメや観光スポットと合わせて、穴場としてユニークな温泉を発見・アピールしようをテーマに取り組んでいます。今期は、4つのグループに分かれて、それぞれの研究テーマを設定し、現地フィールド調査を行い、結果をまとめました。以下にその調査結果の一部について簡単に紹介します。



## (1) 吉岡温泉会館一ノ湯 — 吉岡温泉街のまちづくり

応和2年(962年)時に開湯されたと言われる歴史がある温泉です。平成30年4月に日帰り入浴施設吉岡温泉館が移転・新築整備し、吉岡温泉会館一ノ湯として、オープンしました。この一ノ湯は、2種類の浴場、木風呂、岩風呂があり、それぞれに露天風呂、打たせ湯が設けられています。また、ユニークな「テントサウナ」と「わんこの湯」を併設しています。現在、吉岡温泉街には10軒の旅館と共同浴場一ノ湯、足湯(華湯・やすらぎ湯)が2か所あります。温泉を堪能し、周辺のかわいいお店や体験プランなどを通じて地元の方と交流

したり、まちをふらっと散歩したり、吉岡温泉街の魅力を実感してもらうことができます。

## (2) 岩井温泉 — 山陰最古の秘湯

頭に手ぬぐいをのせ柄杓で湯をかむり唄う「湯かむり唄」という珍しい風習が残る山陰地方で1200年の歴史を有する温泉です。岩井温泉は源泉かけ流しで、泉質がカルシウム・ナトリウム硫酸塩泉です。神経痛・リウマチ・婦人科疾患、飲用すれば、慢性胃腸炎や痔疾にもよいとされています。中国山地から流れる清流蒲生川沿いに「岩井屋」「明石家」「花屋」3軒の旅館が建ち、温泉街を形成しています。昭和48年には優れた温泉地の証である「国民保養温泉地」に指定されています。



## (3) 若桜ゆはら温泉ふれあいの湯

氷ノ山の麓にある町営の日帰り温泉施設です。緑の豊かな若桜にある木造の建物が美しい自然に溶け込んだ素朴な作りであり、浴槽がジェット付き、泉質は低張性・弱アルカリ性単純温泉です。ゆったりとくつろぐことができます。氷ノ山に向かう国道482号沿いにあり、登山やスキー客に愛される温泉になっています。

プロジェクトアドバイザー 経営学部 兪成華 教授

プロジェクトメンバー  
プロジェクト研究2 〈環境学部〉 岩田 陽希、倉田 隆成、長島 愛実、宮城 海正  
〈経営学部〉 川村 直輝、桑原 千綾、武田 芽依、田中 悠真  
プロジェクト研究4 〈環境学部〉 藤原 悠輔、松本 一綺、山本 奈央、山本 菜摘、吉原 聡祐  
〈経営学部〉 松本 杏、松本 陸、宮脇 俊哉、柳川 滉介、山本 愛

## 学友会

## 活動報告

## 第23回環謝祭が

## 無事に閉幕しました

2023年10月14日、15日に本学で第23回公立鳥取環境大学大学祭「環謝祭」を開催いたしました。今回はコロナウイルスによる規制を4年ぶりにすべて解除して行われました。今年度のテーマは「～笑顔と活気であふれる環謝祭へ～」でした。学生達は思い思いのブースや企画を立ち上げ、二日間でのべ1619人の方に来場いただきました。学内に活気が戻って来たことを実感しました。来年度のご来場もお待ちしております。

## — 学生メッセージ —

第23回環謝祭にご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました！今年は環謝祭の雰囲気を変える取り組みを行いました。委員会内でも賛否があり、定着していくかは分かりません。これからも委員一同、より多くの方が楽しめる、環境大らしいイベントを作るべく活動して参ります。来年度も是非お越しください！

大学祭実行委員会委員長  
福島 洋太 さん



苦勞を分かち合った大学祭メンバー



ステージイベントも盛り上がりました



## 環境学部 徳田准教授が 第65次南極地域観測隊に 参加しています!

環境学部 徳田悠希准教授が第65次南極地域観測隊員に選ばれ、2023年11月に南極へ出発しました。(徳田准教授は第61次南極地域観測隊にも参加しており、今回は2回目の参加となります)

### 徳田准教授のコメント



我々の研究チームは、地球温暖化に伴う南極氷床融解がどのようなメカニズムで生じているのかを地質学的に研究しています。今回の観測では、前回の南極観測で得られた研究成果をさらに推し進めるため、南極の海底堆積物の掘削や南極の底生生物の採集を行う予定です。特に、南極の深海に生息する長寿のサンゴを採集し、その骨格を分析することで、通常の地質学の研究では難しい産業革命以降の南極の環境変動を詳細に解明したいと考えています。観測隊全員の力を合わせて、南極観測を成功させるため一杯頑張ってきます。応援よろしくお願いします。

## ウクライナ研究員 メドページェワ・ユリアさんの 研究成果発表会を開催しました

令和5年12月13日にウクライナから避難して本学で研究を継続しているメドページェワ・ユリアさんによる研究成果発表会を開催し、本学の学生や教職員が聴講しました。

メドページェワさんは、環境学部 角野貴信准教授とともに登壇し、「ウクライナ都市域は農地として適しているか」というテーマで通訳を介して研究発表及び質疑応答を行いました。聴講者にとって、ウクライナ土壌の現状や今後の課題等について理解を深める機会となりました。



## AI・数理・データサイエンス 教育プログラムの修了認定証 授与式について

令和5年11月10日に、AI・数理・データサイエンス教育プログラムの修了認定証授与式を行いました。AI・数理・データサイエンス教育プログラムは本学独自の教育プログラムとして、令和5年度よりスタートしました。デジタル社会の「読み・書き・そろばん」と呼ばれる「AI・数理・データサイエンス」をレベルに応じて「リテラシー」と「応用基礎」の2つの教育プログラムを設けています。今回は教育プログラムの初めての修了者6名に対して、修了認定証を授与しました。



そのほかのニュースは  
こちらからご覧いただけます

<https://www.kankyo-u.ac.jp/tuesreport/2023nendo/>



## 西部サテライトキャンパス 移転のお知らせ

鳥取県米子市にある「西部サテライトキャンパス」が移転しました。

〈移転後〉

〒683-0036

鳥取県米子市弥生町12 米子グ  
ルメブラザ(JR米子駅すぐ側)

電話番号等については、変更ありません。

電話:0859-23-1311



### 西部サテライトキャンパス

就職活動を行う学生への支援拠点として、鳥取県西部地区や鳥根県での求人先の新規開拓、模擬面接や就職相談などを受け付けています。また、公開講座などの各種講座の開講、鳥取県西部地区の商工会議所や経済団体との交流、行政機関との連携など、地域貢献・社会貢献の拠点として活動します。

詳しくは各お問い合わせ先へご連絡ください

公開講座



公開講座2024

本学では一般の方を対象とした公開講座を実施しています。オンデマンド動画配信もありますので、ぜひご視聴ください。(動画は随時更新中)  
2024年度はリカレント教育の充実を図り、新たにコース形式の講座も実施予定です。

● 講座情報や動画視聴はこちらからお申し込みフォーム/

公立鳥取環境大学 公開講座



<https://www.kankyo-u.ac.jp/about/alliance/seminar/>

お問い合わせ 研究交流推進課

TEL 0857-38-6704

E-mail event@kankyo-u.ac.jp

KANラジ 動画配信中

環境大から、あなたへ!

知識は宝だ! 環境大の気軽に学べるラジオ

KANラジ

KANラジとは?

本学の教員が自身の専門分野や研究についてラジオパーソナリティーとトークを展開する、気軽に学べるラジオ番組です。

KANラジの収録風景を本学公式YouTubeチャンネルからご覧いただけます。

KANラジ再生リスト



本学教員の、普段なかなか聞くことのできない話をぜひご視聴ください!

- 第5回「AIとのお付き合いの方法」人間形成教育センター 堀 磨伊也 准教授
- 第6回「佐治町で脱炭素を考える」環境学部 金 相烈 教授・環境学部 山口 創 准教授

寄付金のお願い

学生支援及び教育環境の充実を目的として「公立鳥取環境大学基金」を設立しました。皆様から頂いたお志を財源とし、修学援助など学生の生活や教育活動への支援及び教育研究施設・設備等の整備に活用させていただきます。



※1口1,000円からのご寄附をお願いします。

● 詳細はこちらから

<https://www.kankyo-u.ac.jp/about/donation/>



お問い合わせ 総務課財務係

TEL 0857-38-6705

E-mail zaimu@kankyo-u.ac.jp

2023年度 学部・大学院 学位授与式

2023年度公立鳥取環境大学 学部・大学院学位授与式を下記の通り執り行います。開催日が近づきましたら、詳細をホームページでお知らせしますので、ご確認の上、ご出席ください。

【日時】2024年3月20日(水・祝)  
10:00 / 開 式  
(9:30受付開始/12:30終了予定)  
【会場】とりぎん文化会館梨花ホール  
(鳥取県鳥取市尚徳町101-5)

〈お問い合わせ先〉  
公立鳥取環境大学総務課  
TEL:0857-38-6700

2024年度 前期開始日程

- フレッシュアップセミナー・前期ガイダンス：2024年4月3日(水)～
- 履修登録期間：2024年4月3日(水)～4月5日(金)

授業料の納入について

授業料の納入期限は、前期5月31日(金)、後期11月30日(土)です。納付書の送付は、納入期限の概ね1か月前になるので、よろしくお願ひします。



決算報告

2022年度の決算の概要は次のとおりです。詳しい情報は大学のホームページでご確認ください。  
([https://www.kankyo-u.ac.jp/about/announcement/report\\_since2012/r4/](https://www.kankyo-u.ac.jp/about/announcement/report_since2012/r4/))

損益計算書

収 益		
項目	金額(円)	割合(%)
運営費交付金収益	856,707,172	45.7%
入学金収益	85,728,000	4.6%
授業料収益	647,703,047	34.5%
検定料収益	22,872,000	1.2%
受託研究・事業等収益	14,627,142	0.8%
補助金等収益	83,885,287	4.5%
施設費収益	3,619,889	0.2%
寄附金収益	4,279,065	0.2%
資産見返負債戻入	80,320,429	4.3%
財務収益	4,012,686	0.2%
雑益	17,430,561	0.9%
臨時利益	55,367,339	2.9%
合計	1,876,552,617	100%

収 益

大学の収益は主に、設置者(鳥取県及び鳥取市)からの運営費交付金(45.7%)と学生からの入学金及び授業料の納付金(39.1%)です。

費 用

項目	金額(円)	割合(%)
教育経費	360,865,941	19.2%
研究経費	96,310,535	5.1%
教育研究支援経費	102,382,664	5.5%
受託・共同研究・受託事業費	11,890,647	0.6%
人件費	1,110,641,172	59.2%
一般管理費	120,116,632	6.4%
臨時損失	460,886	0.0%
当期総利益	73,874,140	4.0%
合計	1,876,542,617	100%

費 用

大学の費用は主に、教育経費(19.2%)、研究経費(5.1%)、教育研究支援経費(5.5%)、役員・教職員の人件費(59.2%)、一般管理費(6.4%)です。

貸借対照表

資 産		
項目	金額(円)	割合(%)
土地	3,514,650,000	35.7%
建物、構築物、 工具器具備品他	4,855,508,439	49.3%
図書	404,087,063	4.1%
その他有形固定資産	8,809,274	0.1%
無形固定資産	26,129,817	0.3%
有価証券等	99,407,966	1.0%
現金	698,768,164	7.1%
未収入金等	241,389,641	2.4%
合計	9,848,750,364	100%

資 産

大学の保有する資産はその大部分が土地・建物等(85.0%)です。また、その他の主な資産として有価証券・現金等(8.1%)、図書(4.1%)となります。

負債・純資産

項目	金額(円)	割合(%)
固定負債	560,703,137	5.7%
流動負債	335,725,832	3.4%
資本金	8,336,830,000	84.6%
資本剰余金	△138,504,327	△1.4%
利益剰余金	753,995,722	7.7%
合計	9,848,750,364	100%

負債・純資産

資本金は設置者から出資(鳥取県50%、鳥取市50%)。また、固定負債は全て資産見返負債となります。

※資産見返負債:目的積立金及び施設費以外の財源で固定資産を購入する場合、計上する必要がある地方独立行政法人会計特有の負債。この負債は各固定資産の耐用年数に応じて毎年減額します。

お知らせ  
ニュースを発信中!



公立鳥取環境大学 公式SNS



@kankyo\_U  
(旧ツイッター)



@kankyo-u



公立鳥取環境大学  
公式チャンネル

